



インターネットでの情報提供	
提供予定日	7月7日(火)

平成27年7月6日(月) 県政記者クラブ配布資料			
担当課	担当係	担当	電話番号
危機管理政策課	原子力防災係	棚橋	直通 058-272-1129 内線 2477

原子力災害に係る避難方法シミュレーションの結果について

県では、原子力災害対策計画に定める原子力災害対策強化地域^(※1)における避難対策の検討に活用するため、避難時間を推計するシミュレーションを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

(※1) 県が平成24年度に実施した放射性物質拡散シミュレーション^(※2)において、国が定める一時移転基準を超える可能性が示された地域

(※2) 平成22年度の気象観測データを用いて、本県が各季節の最大線量となるケース及び最も影響が広がるケース等28ケースについてシミュレーションを実施したもの

記

1 シミュレーションの目的

原子力災害時に一時移転の可能性のある地域において定められた期間内に当該地域を離脱できるかどうかを推定すること、また、様々な避難対策を想定し、どの程度の時間短縮効果が期待できるかを把握するために実施

2 シミュレーションの条件

- 岐阜県から最寄りの原発(敦賀発電所)において単独災害が発生し、拡散シミュレーションにおいて最も影響が大きかった「揖斐川ルート」又は「関ヶ原ルート」から放射性物質が流入したと仮定
- 各ルート上の市町において、国が定める一時移転基準を超える空間放射線量率を観測したため、発災日の翌日に、当該市町の住民に対して1週間程度内に避難するよう指示が出されたと仮定(シミュレーション上の避難期間は5日間に設定)
 - ・ 揖斐川ルートの場合 → 7市町の約17万人に避難指示
 - ・ 関ヶ原ルートの場合 → 19市町の約76万人に避難指示
- 避難指示と同時に、まず拡散シミュレーションで外部被ばく実効線量が100mSv/年以上の可能性が示された地区の住民が避難(小学校区単位を基本に避難を実施)
- その後、その他の地区(拡散シミュレーションで外部被ばく実効線量が20~100mSv/年の可能性が示された地区)の住民が順次避難
- 避難手段は、自家用車(1台あたり3名乗車)。避難道路は、高速道路、国道、主要地方道等(避難者は最適な経路を各自選択して避難するものと仮定)

3 シミュレーションの結果

- 揖斐川ルート及び関ヶ原ルートにおいて、各7通り（全14通り）のシナリオを設定し、避難対象地域の全住民が当該地域から離脱するまでの時間を推計
- 主な結果は、以下のとおり
 - ・ 揖斐川ルート、関ヶ原ルートともに5日間での離脱が可能
 - ・ 避難車両台数を減らす対策（相乗りの実施やバスの活用）や避難車両を分散させる対策（段階的避難の実施）、避難車両の走行を円滑にする対策（交通規制による一般車両の排除）を講じることによって避難時間を短縮させることができた

	内容	小学校区単位の最長離脱完了時間 (車両1台あたりの平均走行時間)		
		揖斐川ルート	関ヶ原ルート	
基本シナリオ	5日間かけて順次避難	4時間20分 (13分)	19時間20分 (2時間55分)	
乗車率変更シナリオ	1台あたり乗車人数を変更 3人/台→4人/台	3時間30分 (13分)	14時間40分 (2時間29分)	
順次避難の避難日 変更シナリオ	順次避難の避難期間を変更 揖斐川ルート：5日間→3日間 関ヶ原ルート：5日間→6日間	4時間40分 (15分)	19時間00分 (2時間38分)	
避難対策実施シナリオ	基本シナリオにおいて特に混雑した1日 (揖斐川ルートは2日目、関ヶ原ルート は4日目)を選び、各対策を実施した場 合の効果を検証	〔 比較データ 〕 2日目 4時間20分 (17分)	〔 比較データ 〕 4日目 18時間00分 (3時間36分)	
	避難開始時刻 変更シナリオ	避難開始時刻を分散 9時 → 9、12、15時	4時間20分 (14分)	14時間20分 (2時間32分)
	バス避難シナリオ	避難時に利用可能なバス（377台）を 投入（1日最大2往復）	0時間40分 (11分)	13時間10分 (3時間07分)
	交通規制シナリオ	交通規制により混雑区間の 一般車両を排除	全て排除	4時間20分 (13分)
半分排除			4時間20分 (15分)	16時間50分 (3時間31分)

4 今後の取組

今回のシミュレーションにより、大まかな傾向を把握することができたため、今後、交通規制の方法などについて、関係機関と調整しながら検討を進めていく予定です。